



2020年（令和2年）6月11日 // 木曜日 // 第2号

プレジール通信

“プレジールのいま”を（不）定期的にお伝えします。



商品化されたブラックフォーマルバッグの一例

鉄道好きゆえの デザイン

筆者（梅澤）は、筋金入りの鉄道好き。ステイホームを機に、「〇〇線、前面展望」と言うワードで検索を掛け、全国各線の前面展望をYouTubeで楽しむようになりました。

前面展望…？鉄道会社の方や鉄道好きな一般の方が運転席から、或いは運転席越しの車内から主に先頭車両の正面の窓から見える風景をビデオ等で撮影して下さっている映像で、それがネット上にアップされているのです。

面白い…？とお思いかも知れませんが、勿論面白い。「走行音」を楽しめたり、「車内アナウンス」を聞けたり、何より、どんな風景の中を列車が走って行くのかが良く分かります。すっかり旅気分、このところ全国各地の路線に乗った気分でエンジョイさせて貰っています。

ブラックフォーマルバッグのデザインも担当する筆者（梅澤）。かなりの量をデザインしましたが、ある時気付いた事があります。バッグのデザインが、どこか電車に似てしまうのです。電車的なバッグは女性が使うブラックフォーマルバッグとしては相応しくない場合も。担当者から「もっと可愛く！」「もっと女性らしく！」と指摘される事もありました。勿論、電車に似せて描こうとしているのではなく、趣くままにデザインしていると、知らぬ間に電車的なデザインに…困った弊害でしたが、なかなか良いデザインが生まれ続け、商品化もされました。男女を問わず好まれるデザインの電車が多いのも事実。好まれるデザインの良いヒントとなっていたのかも？知れません。



筆者が作成しているミナレス合切袋シリーズ。左から江戸サコッシュ、合切手提げ、ドッチモ。

コーディネーター兼合切袋職人

弊社プレジールは袋物の製造卸。

では製造卸ってどういう事をしているの？とお思いの方もいらっしゃるかと思います。今回は改めてそのお話を。

弊社では、社長である梅澤輝夫や筆者（社長の息子、剛臣）がハンドバッグを実際に制作する事はありません。ハンドバッグを制作するのは、弊社専属の職人たち。彼らはそれぞれの自宅に工房を構え、ハンドバッグの制作を行っています。

それでは、プレジールは一体、何をするのか？

我々の仕事は、取引先の担当の方々とお目に掛かり、より良いバッグを作るべく打合せを重ねて行く事。そして、実際にそのバッグを完成させる為に材料を見極め、決定し、職人たちに指示を出し、職人たちが作業を進めやすいように準備を整える事。職人たちが作り上げたバッグを、汚れや黄ばみが問題となったマスクと同じような事が起こり得ないようにしっかりと検品し、納品させて頂く事。このため実際にお目に掛かる機会を作る事が大切なのです。

「新しい生活様式」での暮らしでは、これまでのこのような仕事の進め方も変えなければなりません。実際に会う事を極力控え、オンラインを活用した打合せが主流となるかも知れません。プレジールではZoom等での打合せも可能なように既に準備を整えています。

ちなみに、プレジールの合切袋商材「ミナレス合切袋シリーズ」は、筆者（梅澤）がデザイン、型紙作り、縫製、検品、納品までの全てを担当しています。

合切袋は筆者（梅澤）が作ります。

しかもその合切袋は、江戸の頃に作られていた際の伝統的な縫製方法に則り、敢えて大量生産には不向きな方法で、手間をかけて作っています。表面に一切の縫い目が出ないこの縫製方法で仕立てた合切袋は、マチの無いスッキリとしたデザインに仕上がるほか、リバーシブルでお使い頂く事が可能です。紐を通すコキも接着剤を一切使わない留め方を採用。仕立て方もじっくり見て楽しんで頂ける商材となっています。